

令和6年度 第2回 城北小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年6月6日（木） 14時30分から16時15分まで
- 2 開催場所 城北小学校 会議室
- 3 出席委員 岩井弘美子、川嶋 正幸、中川 勝夫、中川 智博
清水 裕人、紙上 理恵、森 聖子、高田あゆみ
- 4 欠席委員 高柳 理子
- 5 オブザーバー 井下 俊輔（青少年の家）、鈴木 皓介（高台協働センター）
- 6 学 校 土屋 憲司（校長）、太田 礎子（教務主任）、中村 朝実（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 中村 朝実

10 議長の選出

司会から、議長の選出について意見を求めたところ、川嶋委員より岩井会長を推薦する旨の発言があり、全員異議無くこれを承認した。

11 協議事項

（1）「やさしさ」を形にするために

- ・特別活動等における実践について

（2）学校評価の評価項目について

12 会議記録

司会から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）「やさしさ」を形にするために

- ・特別活動等における実践について

太田教務主任から特別活動等における実践について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・人と人が関わることで子供が「これがやさしさなんだ」と気付く。やさしくしてもらった積み重ねが必要。それがやさしさを育てる。（岩井会長）
- ・悪いことをした友達を叱るのもやさしさ、見て見ぬふりをするのはやさしさ？注意してけんかになったら？やさしさは難しい。（川嶋委員）
- ・低学年は親の真似でやさしさを学ぶ。3年生からは競争で学んでいく。（岩井会長）
- ・転んだ経験で気を付けていくように、小さいうちに怒られて学んでいって大人になっていく。たくさん経験しミスをして、フォローする大人がいることが大切。（川嶋委員）
- ・実際に経験しないと伝わらないので、城北サポーターの方達と会って会話することで学ぶ事は多いと思う。少しでもコミュニケーションをとって、やさしさを学んでほしい。以前はクラブで地域の方と関わる事ができたが…。（紙上委員）

→今年はクラブをやっていきたい。（太田教務主任）

- ・やさしさって教える事ではない。大人がしっかりあいさつしたり会話しているのを見て、学んでいく。先生も言ってくれば子供も言う。大人も返してキャッチボールができてやさしさは伝わる。（川嶋委員）

- ・感じる子にしなければいけない。嬉しいな、楽しいな、やればできる…と感じて少しずつ成長できたと感じさせる。褒めて認めて、心につながっていく。(岩井会長)
- ・結果ばかり求めないで、プロセスを褒めてあげることが大事。家庭も学校もプロセスを認める教育になると良い。(森委員)
- ・人って上から目線になりがち。一緒にやる必要がある。そういう方法もあるんだ！となると面白い。答えは一つではない。(川嶋委員)
- ・「城北っこ5つのめあて」について運営委員会18名の子供たちに意見を聞いてみた。子供たちに考えてもらっている。自分たちのものになっていくと思う。(校長)
- ・子供たちの為のものなので、子供たちの言葉で作るのが良いと思っていたので、嬉しい。子供なりの言葉になると良い。(森委員)
- ・子供たちが地域に出て聞きに行くのも良いかも。(紙上委員)
- ・1年生が分かれば高齢者も理解できると思う。(川嶋委員)
- ・1年生も理解できるものにするという意識が出ると良い。(森委員)
- ・1年生が見ても分かる、読めるというのが大事。(清水委員)
- ・分かりやすいけど、奥深く。(岩井会長)
- ・〇〇ができたら良いね！「ありがとう」って言葉使ってる？など子供のアクションを文に入れると分かりやすいかもしれない。(森委員)
- ・子供たちに考えさせることで、訴える力は大きくなる。言われたことをただやるのとは違う。(川嶋委員)
- ・言葉ではなくてポスターでも良い。ぱっと見て分かるものでも良い。(森委員)
- ・協働していきたいので、決まったら地域やいろいろな所に浸透させていきたい。(岩井会長)
- ・夏休みの宿題でポスター募集して、それを地域に貼っていくのも良い。(清水委員)
- ・「使おう」ではなく、「見よう、言おう、聞こう…」にすれば目、口など使わなくて済む。カラー別は良い。今日はピンクができた！と思えるし、会話になる。(森委員)
- ・PTAとしてはお知らせすることは可能だが、会員が半数なので半分にしか届かない。学校からやらないと全体に行かない。(森委員)
- ・協働センターや青少年の家などの事業とつなげて、色分けしてスタンプラリーのようにやるのも良い。(川嶋委員)

(2) 学校評価の評価項目について

- ・学校評価項目の3, 9, 12は数字が落ちているところ。謙遜心があって自己評価が低いと下がっていくところ。謙遜か自信がないのか？そういう傾向は教育現場で感じるのか？(中川智博委員)
- 城北では自分に自信が無いようには感じない。お客様からも「ここは人なつっこさ過去最高です」と言われたことがある。(校長)
- ・運動会での良い意味での賑やかさで分かる。やったことを褒めることによって、承認され、自信がコツコツ積み重なっていく事が、この数字をあげていくコツかなと思う。ちゃんと褒めてあげて、しっかりアプローチすれば勝手に上がっていくと思う。(中川智博委員)
- ・「やさしい言葉を使っている」は抽象的。「自分の良さを見つける」は大人でも難しい。学年ごとに言い方を変えてやると分かりやすいのでは。資料②の先生達の課題を使って、友達の話聞くのが難しいなら、それを使ってアンケートにするのも良い。(森委員)

・アンケートの実施は年間で1回なのか？（紙上委員）

→はい。いじめのアンケートは学期ごとにとっている。1人1人自己評価の基準が違う。大人が「それでいいんだよ」と言ってあげる大切さを感じる。（太田教務主任）

・評価ってアンケートって100%を目標にしているのか。どこが目標値なのか。外れている人たちをどうフォローするのか。そうすると100%になるのか。個性がない子供たちが増えるのも心配。学校としては素晴らしい内容で、本音と建て前が子供にもあるので、親の集まりで本音を聞けると見えてくるかも。100%は良い、20%は悪い子になってしまうのも違うと思う。

家庭の本音をピックアップできると良い。先生が大変になりすぎないように、できることがあれば地元に頼ってもらいたい。自治会との連携もあると、地域一帯になれると思う。（川嶋委員）

・100%でなければいけないわけではない。段階的に考えれば6割越えていれば素晴らしい結果だと思う。（森委員）

・良い人が多ければ、それに引っ張られていくから70～80あれば良い影響が多い。この成績は城北としてはOKだと思う。（川嶋委員）

・先生方の中でも基準があれば、この数値なら良いなと思える。（森委員）

→アンケートは教育課程を決める材料として児童、教師、保護者地域の3つに分けて比較したい。100%に囚われる必要は無い。（校長）

その他報告事項等

（1）学校支援CDから

- ① 5月の城北小サポーター活動実施報告
- ② 城北小サポーター顔合わせ・説明会報告
- ③ 「コミュスク便り（5月号）」「城北小サポーターQ&A（6月）」発行について

その他連絡

次回の運営協議会は10月24日（木）14時00分～15時30分、城北小学校会議室で行う。